

令和3年度

西東京市事務事業評価報告書

令和4年3月

西 東 京 市

目 次

| | | |
|-----|-------------------|----|
| I | 行政評価の概要 | |
| 1 | 行政評価とは | 2 |
| 2 | 行政評価の目的 | 2 |
| 3 | 行政評価の階層 | 3 |
| 4 | 事業見直しの視点 | 4 |
| 5 | 行政評価スケジュール | 4 |
| 6 | 事務事業評価の事業選定の考え方 | 5 |
| 7 | 行政評価制度（事務事業評価）の流れ | 6 |
| II | 令和3年度行政評価（事務事業評価） | |
| 1 | 事務事業評価の評価結果一覧 | 8 |
| 2 | 行財政改革推進本部の評価区分 | 8 |
| III | 事務事業評価シート | |
| | 事務事業評価シート | 10 |

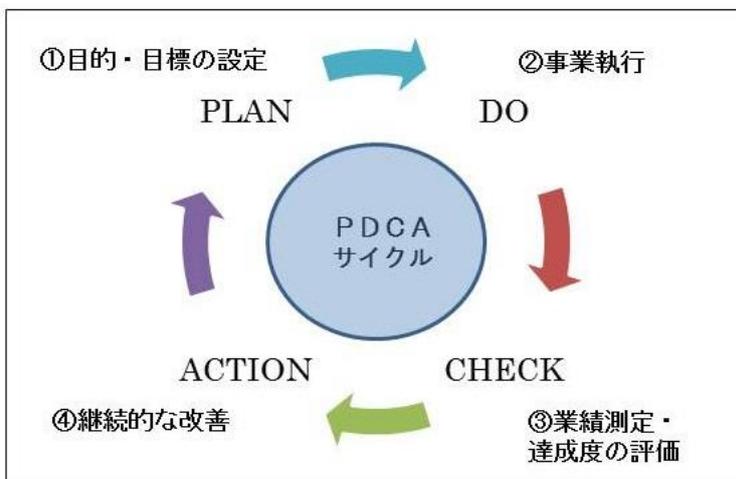
I 行政評価の概要

1 行政評価とは

- 行政評価とは、「政策・施策・事務事業からなる政策体系を対象に、その成果や実績などを、事前、中間または事後において、有効性、効率性などの観点から評価するもの」と一般的に定義されており、行政評価を通じて出された結果を予算や計画等へ反映することで、より良い行政運営が可能になります。
- 行政評価は、政策、施策、事務事業について、それぞれ事業実施前（事前評価）、事業実施後（事後評価）に行うことができます。
- 本市では、市の事業を不断に見直し、限られた行政資源（人員・財源等）を効率的・効果的に配分し、戦略的で費用対効果の高い事業運営を行っていくためのツールの1つとして、平成17年度から行政評価制度を本格導入しました。
- 平成21年度には、制度の再構築を行い、より広い視野から行政運営の見直しを行うため、主に総合計画に掲げた施策・事業を対象として、事務事業評価と施策評価を交互に実施しました。平成23年度からは、事務事業評価で外部評価を試行的に実施するなど、内容の拡充に努めてきました。
- 平成26年度においても、制度の再構築を行い、事務事業評価への外部評価の本格導入、評価結果への対応状況のフォローアップを強化するなどの見直しを行いました。
- 平成29年度には、平成21年度より交互に実施してきた事務事業評価、施策評価の評価実施サイクルの見直しを行い、制度を再構築しました。

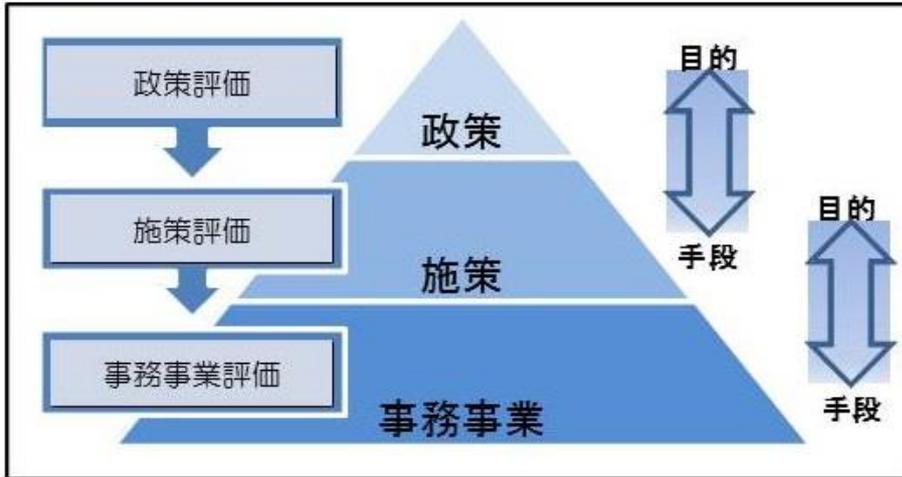
2 行政評価の目的

- 行政評価を実施する目的は、予算・計画を重視し、実施後の検証が不十分であった行政のサイクルに、結果評価のステップを導入することで、計画そのものの有効性を検証し、効率的かつ効果的な事業実施の促進を図ることです。限られた行政資源（人員・財源等）を効率的・効果的に配分し、重要課題に対応していくためには、PDCAサイクルに基づく継続的な見直し・改善が不可欠です。
- 本市においても、労働力人口の減少や高齢化の進展などを踏まえ、戦略的な行政経営や費用対効果の高い事業運営を行うために、行政評価制度を通じた事務事業の見直しによるPDCAサイクルを確立し、評価結果を予算や事業計画等へ反映することで、質の高い行政運営を目指します。



3 行政評価の階層

- 行政評価は、評価の階層として、政策評価、施策評価、事務事業評価に分類されます。これらの階層は、政策→施策、施策→事務事業それぞれに目的→手段という関係にあり、上位の目的を実現するための手段として位置づけられます。



- 階層それぞれの評価は、以下のとおりです。

① 政策評価

政策評価は、まちづくり全体の将来目標などを示したビジョン・方針について評価するものです。このような評価は基本的には選挙などを通じて行っていくことが望まれます。

② 施策評価

施策評価は、事務事業の集まりである施策について、その達成状況を把握し、政策を実現するための手段としての有効性等を評価するものです。施策をある方向性で実施したことで、市民生活にどのような影響があったのか（＝成果）を判定しながら、一方で事務事業という手段の最適化を図る仕組みです。

なお、施策の成果が上がれば、どのような内容・取組・方法でも良いというわけではなく、事務事業評価と連携し、事務事業それぞれの効率化も必要となります。本市においては平成 22 年度から導入しました。

③ 事務事業評価

事務事業評価は、個々の事務事業の有効性、効率性、経済性に関しての判定をします。この階層の評価は、精緻な分析を行うことで事業プロセス改善に役立ちます。

しかし、評価の性格上、個別の精緻な分析をするために、横断的な視野・目的に関する事務事業の位置づけの把握、優先度の把握が難しい等のデメリットもあります。本市においては、平成 17 年度から、この事務事業評価を本格導入しました。

4 事業見直しの視点

- 行政評価により目指すべき目標及び評価の視点は下記のとおりです。
- 事務事業評価では、主にア、イ、エの視点に基づいて実施します。
- 施策評価では、主にウ、オの視点に基づき実施します。

| |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>目標①:市民の視点に立った事務事業の見直し・事務改善</p> <p>【視点】ア 時代の変化・市民要望等を踏まえ、構築すべき施策・事業や、事業の受益者負担の導入等を検討します。</p> |
| <p>目標②:総合計画事業等の的確な進行管理</p> <p>【視点】イ 将来にわたる市を取り巻く行財政環境や市民要望等を総合的に勘案し、効率的・効果的な事業運営を行います。</p> <p>ウ 施策目標の実現に向けた事業の優先度・貢献度を判定し、第2次総合計画に掲げられた市の主要事務事業を戦略的に展開していきます。</p> |
| <p>目標③:限られた行政資源の適正配分・有効活用</p> <p>【視点】エ 庁内類似事業の整理・統合や多摩26市平均との比較に留意して、西東京市の事業サービス水準を調整します。</p> <p>オ これまでの成果や課題を把握し、市が目指すべき施策の方向性を明らかにします。</p> |

5 行政評価スケジュール

平成29年度の制度再構築を踏まえ、令和3・4年度には次期総合計画の策定を見据え、市民意識調査及び施策評価を実施し、それ以外の年度においては事務事業評価を実施（令和2年度に実施を予定していた事務事業評価は新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年度に延期）します。

なお、評価した事業に対するフォローアップについては、毎年度実施し、評価結果に対する着実な見直しを図ります。

| 実施項目 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 |
|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 事務事業評価 | ○ | — | ○ | — | ○ |
| 施策評価 ※令和3年度は市民意識調査 | — | — | ○ | ○ | — |
| 評価した事業に対する フォローアップ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

6 事務事業評価の事業選定の考え方

事務事業評価の事業選定の対象項目は、以下のとおりです。

① 補助金・負担金

平成 25 年度事務事業評価外部評価における指摘に基づき、補助金・負担金全般についても事務事業評価の対象とし、評価を実施しています。

② 施策評価のフォローアップ

施策評価によりコストを抑制すべき施策領域、または内容を見直すべき施策領域とされた施策に連なる事業について、事務事業評価を実施します。

③ 過去に評価した事業に対する再評価

過去に見直しの評価を受けた事業で、評価年度から 4 年度を経過しても十分な見直しを行うことができなかった事業は、評価年度から 5 年度目以降、見直しの進まない要因も踏まえて再評価を実施します。

④ 経常事業

経常事業は必要に応じて評価を実施することとし、課題や見直しの方向性が明らかである事業については、第 4 次行財政改革大綱アクションプランにおいて進捗管理を行うなど、評価実施に伴う業務負担の軽減にも配慮します。

令和 3 年度事務事業評価における事業選定の対象要件は、下表のとおりです。

| 対象項目 | 対象要件 |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 補助金・負担金 | 補助金・負担金のうち以下の事業を除いたものの中から選定する。 ① 国都補助事業（決算で充当された事業を除く） ② 平成 28・30 年度・令和元年度事務事業評価で対象とした事業 ③ 法令等により市に裁量の余地がない事業及び性質上評価が困難であると考えられる事業 |
| 経常事業 | 内部事務を中心に選定する。 |

7 行政評価制度（事務事業評価）の流れ

ステップ1 一次評価

～現場の意見を反映～

事業担当課によって事業の達成状況、現場の課題、他の類似事業との比較を客観的・統一的手法により評価します。



ステップ2 二次評価

～客観的な評価により各事業の課題を把握～

現場に近い管理職（事務事業等適正化委員会）によって、客観的な視点から評価し、各事業における西東京市の水準、課題を明確にします。



ステップ3-1 市民要望等の聴取 ※今年度は実施を見送り

～市民要望・学識意見を反映～

中間の評価結果を公表するとともに、市民意見提出手続制度（パブリックコメント）で市民要望等を把握します。



ステップ3-2 外部評価 ※今年度は実施を見送り

～行財政改革推進委員会による評価～

市民や有識者など行政外部の視点による評価を取り入れます。



ステップ4 部長調整会議

～全庁的視点による事業の選択と集中～

より高度の視点から、西東京市における課題や市民需要等を把握し、選択と集中によって事業見直しのポイントを提示します。



ステップ5 行財政改革推進本部評価

～経営トップによる判断～

行財政改革推進本部（市長等経営層から構成）において、市の戦略を明らかにします。



ステップ6 改善の方向性・スケジュール

～今後の対応～

行財政改革推進本部評価を受けて、事業担当課が今後の改善の方向性やスケジュール等を示し、事業改善に向けて取り組みます。

評価した事業に対するフォローアップ

事業を評価した翌年度に、当該事業に対するフォローアップを実施することにより、評価結果に対する着実な見直しや予算への反映に向けて、進捗管理を行います。

Ⅱ 令和3年度行政評価（事務事業評価）

1 事務事業評価の評価結果一覧

令和3年度は9事業（事後評価8事業・事前評価1事業）を評価しました。

《事業別一覧》 個別の事務事業評価の内容は、「事務事業評価シート」をご覧ください。

| 部署名 | | No. | 事務事業名 | 行革本部 評価 | 事前● 事後○ | 頁 |
|-----|-------|-----|---------------------------------|------------|------------|----|
| 企画部 | 秘書広報課 | 1 | 更新通知アプリ HP 来～る便 | 廃止 | ○ | 10 |
| | 情報推進課 | 2 | 地域情報システム整備事業費（いこいな西東京ナビ） | 改善・見直し | ○ | 12 |
| 総務部 | 職員課 | 3 | 職員提案制度 | 改善・見直し | ○ | 14 |
| | | 4 | 職員福利厚生費（被服貸与） | 改善・見直し | ○ | 16 |
| 市民部 | 保険年金課 | 5 | 保養施設事業費 | 廃止 | ○ | 18 |
| 教育部 | 教育企画課 | 6 | 一般管理事務費（教育委員会広報） | 継続実施 | ○ | 20 |
| | 教育指導課 | 7 | 情報教育推進事業（GIGA スクール タブレットの活用） | 継続実施 | ○ | 22 |
| | 図書館 | 8 | 図書館運営管理費 | 継続実施 | ○ | 24 |
| | 図書館 | 9 | 開館時間の延長 | 抜本的見直し | ● | 26 |

2 行財政改革推進本部の評価区分

【事後評価】

継続実施：現状どおり事業を実施していくもの。

改善・見直し：業務の効率化等を図りつつ、事業を継続していくもの。

抜本的見直し：事業内容や実施手法など、仕組みを含めた抜本的な見直しが必要なもの。

廃止：市の主体事業として、役割が果たされたもの。

また、民間事業者等に委ねることが可能なもの。

【事前評価】

事業化：計画どおり、事業化するもの。

実施を延期：事業化に向けては課題があり、実施時期を延期するもの。

引き続き、事業化に向けた調整を進めていくもの。

抜本的見直し：事業内容や実施形態の変更など、事業化に向けては仕組みを含め抜本的な見直しが必要なもの。

計画を中止：事前評価の結果、事業化しないもの。

Ⅲ 事務事業評価シート

事務事業評価シート(事後評価)

| | | |
|-----|----------------|-----------|
| No. | 事務事業名 | 所管部課 |
| 1 | 更新通知アプリ HP来～る便 | 企画部 秘書広報課 |

| | | | |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務事業の概要 | 事業の目的 | | 根拠法令等 |
| | 市ホームページの更新情報や新着情報をアプリを通じて希望者に通知し、市政等に関する情報を市民に提供することにより、市民の市政等に対する理解及び周知を図ることを目的としている。 | | <input type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input type="checkbox"/> 条例・規則・規程 <input type="checkbox"/> 要綱・要領 |
| | 事業の概要 | | |
| | 平成28年3月の市ホームページのリニューアルの際に、西東京市公式ホームページ更新通知アプリ『HP来～る便』を導入した。アプリケーションソフトを入手(ダウンロード)後、市ホームページ全体の中から、関心があるジャンル「暮らし・手続き」、「子育て・教育」、「イベント情報」などを選択し、設定を保存すると、選択したジャンルの中で更新情報や新着情報があると、利用者に通知するスマートフォンアプリとなっている。 ■アプリの機能 ・更新情報、新着情報のお知らせ機能(14のジャンルから関心のあるジャンルを選択することが可能) ・「お気に入り」に登録することで、気になる記事をスムーズに閲覧することが可能 ・アプリを経由して西東京市ホームページ(スマートフォン版)の閲覧が可能 ■アプリ利用者数 令和3年5月現在 91人 | | |
| 事業開始時期 | 平成28年3月 | 実施形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 () |

| 項目 | 単位 | 平成30年度 (決算額) | 令和元年度 (決算額) | 令和2年度 (決算見込み額) | 令和3年度 (当初予算額) |
|----------------------------------------|----|-----------------|----------------|-------------------|------------------|
| 事業費(A) | 千円 | 1,476 | 1,476 | 1,476 | 1,476 |
| 内訳 | | | | | |
| 主要な経費: 委託料 | | 1,476 | 1,476 | 1,476 | 1,476 |
| その他: なし | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源 | | | | | |
| 内訳 | | | | | |
| 国庫支出金・都支出金 | | | | | |
| 地方債 | | | | | |
| その他 () | | | | | |
| 一般財源 | | 1,476 | 1,476 | 1,476 | 1,476 |
| 所要人員(B) | 人 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 人件費(C)=平均給与×(B) | 千円 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 総コスト(D)=(A)+(C) | 千円 | 1,476 | 1,476 | 1,476 | 1,476 |
| 単位当たりコスト(E) (E)=(D)÷(①アプリ利用者数(月平均)) | 千円 | 17 | 25 | 19 | 15 |

| 指標名 | 単位 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|-------|-------|-------|
| ①アプリ利用者数(月平均) | 実績値※ 人 | 85 | 59 | 76 | 100 |
| ②新規登録者数(累計) | 実績値※ 人 | 1,175 | 1,467 | 1,768 | — |
| 《指標とした数値変化に対する要因分析など》 ①本アプリのアクティブユーザ数の月当たりの平均値 ②本アプリの新規登録者数(年度末累計) 広報西東京・市ホームページ・SNS等で本アプリの周知を図っているが、新規登録者の増加に対し、アプリ利用者数は伸び悩んでいる。 ※令和3年度については目標値である。 | | | | | |

| | | | |
|-------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業環境等 | 他団体のサービス水準との比較 (平均値との比較、本市の順位など) | <input type="checkbox"/> 上 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下 | ホームページ掲載情報など、市政情報へのアクセスの利便性を高める取組として、AIチャットボットによる検索サービスを導入する自治体も増えてきているため、本市のサービス水準は下がりつつある。 |
| | 代替・類似事業の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | 本市でも活用しているフェイスブック(Facebook)やツイッター(Twitter)の他、ライン(LINE)やインスタグラム(Instagram)を活用している自治体がある。 |

【一次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 事業の必要性 | 普通 | 利用者のニーズに応じて情報発信を行えることから、必要なサービスと考える。 |
| 実施主体の妥当性 | 適切 | 市政情報を発信することから、実施主体は適切と考える。 |
| 事業(補助)の対象 | 課題有 | 本アプリの利用者数に鑑み、課題有と考える。 |
| 事業(補助)の内容 | 課題有 | 本アプリの利用者数に鑑み、課題有と考える。 |
| 受益者負担 | — | 市政情報の発信のためのアプリであり、利用者に負担を求めるものではない。 |
| 事業コスト | 高い | 利用者数が伸び悩んでおり、高コストとなっている。 |
| 業務負担 | 軽い | システムによる自動更新のため、事務負担は軽いものとする。 |
| 一次評価 | 評価の判断理由及び現状の課題など | |
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 利用者が受け取る情報のジャンルを選択できることから、利用者に応じた市政情報を提供するうえで効果的なサービスと考えるが、コストに対して利用者数が一定数にとどまっていることが課題であるとする。 また、導入時から時間が経過し、SNS等のツールが充実する中で、新たな情報発信の手法やAIチャットボットを活用した情報検索などについても検討する必要があると考える。 | |

【二次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 事業の必要性 | 普通 | 利用者のニーズに合わせて適切な情報発信を行っていく必要がある。 |
| 実施主体の妥当性 | 適切 | 市政情報の発信であり、市が主体となって実施する必要がある。 |
| 事業(補助)の対象 | 課題有 | 本アプリの利用者数に鑑み、課題有と考える。 |
| 事業(補助)の内容 | 課題有 | 本アプリの利用者数に鑑み、課題有と考える。 |
| 受益者負担 | — | 市政情報の発信のためのアプリであり、利用者に負担を求めるものではない。 |
| 事業コスト | 高い | 本アプリの利用者数の推移に鑑み、高コストである。 |
| 業務負担 | 軽い | アプリ運用に関する日常的な業務はほとんどなく、負担は軽いものとする。 |
| 二次評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題、今後改善すべき点等 | |
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 毎年度の新規ダウンロード数(新規登録者数)に対して、利用者数が伸びておらず、本アプリを通じて市のホームページの情報を得ている継続利用者の数が非常に少ない状況にある。 年額約150万円の事業費に対し、利用者が約90名であり、高コストなサービスとなっているため、抜本的見直しを図る必要がある。 今後は、より利用しやすいアプリへの変更等を検討するとともに、わかりやすい市ホームページの構築や新たな情報発信手法の導入などと合わせ、広報活動の充実を図っていく必要がある。 | |

【外部評価】

| 外部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 実施なし |

【行革本部評価】

| 行革本部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 | 本アプリは、平成28年の市ホームページリニューアルに合わせて、付加的なサービスとして導入したものであるが、新規登録者数(累計約1,800人)に対し、利用者が90人程度に留まるなど、継続的な利用に繋がっていないことから、本事業目的の達成、また、コストの面で課題があると考える。今年度、準備を進めている市ホームページのリニューアルに合わせ、本事業は一旦廃止し、より分かりやすいホームページの構築とともに、効果的な情報伝達の手法について検討し、広報活動の充実を図られたい。 |

【改善の方向性・スケジュールと改善実施にあたっての課題】

| | |
|---------------|--------------------------------------------------------------|
| 改善の方向性・スケジュール | 「HP来～る便」は令和3年度をもって廃止とし、新たに導入した市公式LINE等のSNSを活用した効果的な情報発信に努める。 |
|---------------|--------------------------------------------------------------|

事務事業評価シート(事後評価)

| | | |
|-----|--------------------------|----------|
| No. | 事務事業名 | 所管部課 |
| 2 | 地域情報システム整備事業費(いこいな西東京ナビ) | 企画部情報推進課 |

| | | | |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務事業の概要 | 事業の目的 | | 根拠法令等 |
| | アプリケーションの利用を通じて本市の魅力(地域資源や観光資源等)を市内・外に広く伝えるとともに、防災情報や健康情報なども提供する中で、「住みたいまち」「訪れたいまち」として多くの方に認識してもらうことを目的としている。 | | <input type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input type="checkbox"/> 条例・規則・規程 <input type="checkbox"/> 要綱・要領 |
| | 事業の概要 | | |
| | 本アプリは、平成27年度に地方創生先行型交付金を活用し、「西東京市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における先行取組として構築・導入した。アプリの周知方法としては、市民課窓口での転入者向け案内冊子(暮らしの便利帳)に同包している他、市報、市ホームページへの掲載、成人式、市民祭り等でのチラシ配布を実施している。 ■アプリの機能 ①観光機能(観光スポット検索、おすすめ散歩コースの案内、はなバス情報) ②防災機能(防災施設検索、避難場所までのルート案内、防災ガイド&マップ、ハザードマップ(浸水予想区域図)、常備薬おぼえがき、防災施設経路案内、防災関連リンク) ※防災情報について、災害発生時にインターネットが使えない、インターネットに繋がらない状態での利用も可となっている。 ③健康機能(健康チェック、健康管理日記、健康おすすめ情報) ④高齢者機能(高齢者こんな時は、条件に合った制度・サービスの検索、施設・サービス事業者検索・経路案内) ■その他 平成30年度の改修において、コンテンツの3か国語(英語・中国語・韓国語)対応を実施した。 | | |
| 事業開始時期 | 平成27年度 | 実施形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 () |

| 事業費データ | 項目 | | 単位 | 平成30年度 (決算額) | 令和元年度 (決算額) | 令和2年度 (決算見込み額) | 令和3年度 (当初予算額) |
|-----------------------|------------|-------|-------|-----------------|----------------|-------------------|------------------|
| | 事業費(A) | | 千円 | 1,821 | 1,595 | 1,690 | 1,868 |
| 内訳 | 主要な経費: 委託料 | 1,821 | | 1,595 | 1,690 | 1,868 | |
| | その他: なし | 0 | | 0 | 0 | 0 | |
| 財源内訳 | 国庫支出金・都支出金 | | | | | | |
| | 地方債 | | | | | | |
| | その他 () | | | | | | |
| | 一般財源 | 1,821 | 1,595 | 1,690 | 1,868 | | |
| 所要人員(B) | | 人 | 0.10 | 0.10 | 0.10 | 0.10 | |
| 人件費(C)=平均給与×(B) | | 千円 | 773 | 755 | 735 | 735 | |
| 総コスト(D)=(A)+(C) | | 千円 | 2,594 | 2,350 | 2,425 | 2,603 | |
| 単位当たりコスト(E) | | | | | | | |
| (E)=(D)÷(ダウンロード数(累計)) | | 円 | 738 | 531 | 471 | 434 | |

| 評価指標 | 指標名 | | 単位 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-------------|-----|--------|-------|-------|-------|
| | ① | ダウンロード数(累計) | 実績値 | 件 | 3,517 | 4,428 | 5,148 |
| ② | | 実績値 | | | | | |
| 《指標とした数値変化に対する要因分析など》 ①例年同程度の増加件数で推移している。(参考:H27末・794件、H28末・2,175件、H29末・2,833件) | | | | | | | |

| | | | |
|-------|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 事業環境等 | 他団体のサービス水準との比較(平均値との比較、本市の順位など) | <input type="checkbox"/> 上 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下 | 各市ともに、ごみ分別アプリなどを中心に、様々なアプリケーションを提供している。運用形態によって保守費用等も異なっている。 |
| | 代替・類似事業の有無 | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 西東京に関する4つの機能を1つにまとめたアプリは他にはない。 |

【一次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 事業の必要性 | 普通 | 観光情報(まち歩き)や防災情報などを手軽に確認することができるアプリとして有効である。 |
| 実施主体の妥当性 | 適切 | 市が主体となって実施する必要がある。(一部) |
| 事業(補助)の対象 | 適切 | 全市民を対象としたサービスである。 |
| 事業(補助)の内容 | 課題有 | 運用方法などについて、改善・見直しの余地はある。 |
| 受益者負担 | — | 受益者負担の考え方には該当しない事業である。 |
| 事業コスト | 普通 | 標準的なコストと認識している。 |
| 業務負担 | 普通 | 相応の実施効果である。 |
| 一次評価 | 評価の判断理由及び現状の課題など | |
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 年々、ダウンロード数も伸びてきており、一定程度、事業効果はあると認識している。一方で、運用方法については、情報が多岐にわたっており、一部修正などが生じた場合も事業者に依頼する必要があるため、修正時の時間と費用が課題となっている。簡易な修正は、職員で対応できるよう改修したが、常に最新の情報に更新することが利用者の利便性向上にも繋がることから、引き続き、改善を図りたい。加えて、今後の手続きのオンライン化なども見据え、汎用的なLINEアプリなどとの整理、連携なども検討していきたいと考えている。 | |

【二次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 事業の必要性 | 普通 | 観光情報(まち歩き)や防災情報などを手軽に確認することができるアプリとして有効である。 |
| 実施主体の妥当性 | 適切 | 市が主体となって実施する必要がある。(一部) |
| 事業(補助)の対象 | 適切 | 全市民を対象としたサービスである。 |
| 事業(補助)の内容 | 課題有 | 更新情報の反映(迅速性など)や情報内容の正確性(統一性)について検討が必要である。 |
| 受益者負担 | — | 受益者負担の考え方には該当しない事業である。 |
| 事業コスト | 普通 | 標準的なコストと認識している。 |
| 業務負担 | 重い | 最新情報への更新を徹底した場合、自庁内での職員の負担が生じる可能性がある。 |
| 二次評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題、今後改善すべき点等 | |
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 導入から安定してダウンロード数が伸びており、一定程度の事業効果はあると思われるが、ダウンロード数からは、継続利用者の人数が把握できないため、現行のままの継続運用の必要性については不明な点もある。掲載情報を常に最新の状態に保つためには、日常的なメンテナンスが重要であることから、従事する職員の負担について懸念される。また、「あるこ」等後発のアプリが配信されてきていることから、アプリの役割の明確化や今後の手続きのオンライン化なども見据え、汎用的なLINEアプリなどとの整理、連携なども検討すべきと思われる。 | |

【外部評価】

| 外部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 実施なし |

【行革本部評価】

| 行革本部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 本アプリは、外国語(3か国語)への対応や防災情報においては災害発生時にインターネットが繋がらない状態においても利用可能となっていることなど、効果的な機能が盛り込まれている。二次評価にあるとおり、アプリの役割を明確化し、掲載情報のルール化や情報の更新頻度など、改善・見直しを図りつつ、効率的な運用に努められたい。また、長期的には、より汎用性のあるアプリなどとの整理や連携についても検討を進められたい。 |

【改善の方向性・スケジュールと改善実施にあたっての課題】

| | |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 改善の方向性・スケジュール | ◇令和4年度 アプリの役割の明確化を進めるとともに、機能の整備やLINE等との連携について検討する。 ◇令和5年度以降 令和4年度の検討を踏まえ、対応を図る。 |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------|

事務事業評価シート(事後評価)

| | | |
|-----|--------|------|
| No. | 事務事業名 | 所管部課 |
| 3 | 職員提案制度 | 職員課 |

| | | |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務事業の概要 | 事業の目的 | 根拠法令等 |
| | 広く職員から市政についての改善の提案を求め、これを実施することにより、職員の創意工夫と改善意欲の高揚を図り、もって市民サービス並びに事務及び作業の能率の向上に資することを目的とする。 | <input type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input type="checkbox"/> 条例・規則・規程 <input checked="" type="checkbox"/> 要綱・要領 |
| | 事業の概要 | |
| | ■提案の募集期間(令和3年度参考) 令和3年4月20日から7月30日まで ■提案募集の内容 (1) 改善提案:既存の事務、事業又は市民サービス等の改善策を提案するもの (2) 新規事業提案:西東京市で実施されていない新たな事業を提案するもの (3) 課題解決提案:設定された課題(テーマ)に対して解決策を提案するもの 【参考】令和3年度のテーマ:「職場のコミュニケーションの活性化」 ■実施スケジュール 4月から7月 職員提案の募集 8月から10月 提案の審査、所管課への意見照会 11月 審査会の開催、提案の採否及び受賞区分決定、採用された提案についての対応を指示 翌年1月 受賞者の表彰、審査結果の公表 ■見直し経過 平成27年度に要綱改正し、募集期間を設定し審査会を経て受賞者に褒賞を与える新たな制度としてスタートした。 | |
| 事業開始時期 | 合併以前 | 実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 () |

| 項目 | 単位 | 平成30年度 (決算額) | 令和元年度 (決算額) | 令和2年度 (決算見込み額) | 令和3年度 (当初予算額) |
|----------------------------------|----|-----------------|----------------|-------------------|------------------|
| 事業費(A) | 千円 | 45 | 36 | 53 | 53 |
| 内訳 | | | | | |
| 主要な経費: 報償費 | | 45 | 36 | 53 | 53 |
| その他: なし | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 | | | | | |
| 国庫支出金・都支出金 | | | | | |
| 地方債 | | | | | |
| その他 () | | | | | |
| 一般財源 | | 45 | 36 | 53 | 53 |
| 所要人員(B) | 人 | 0.14 | 0.14 | 0.14 | 0.14 |
| 人件費(C)=平均給与×(B) | 千円 | 1,082 | 1,058 | 1,029 | 1,029 |
| 総コスト(D)=(A)+(C) | 千円 | 1,127 | 1,094 | 1,082 | 1,082 |
| 単位当たりコスト(E) (E)=(D)÷(①応募件数) | 千円 | 63 | 68 | 52 | — |

| 指標名 | 単位 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------|-------|-------|-------|
| ①応募件数 | 実績値 件 | 18 | 16 | 21 | — |
| ②採用件数 | 実績値 件 | 5 | 4 | 4 | — |
| 《指標とした数値変化に対する要因分析など》 ・制度の見直しを行った平成27年度以降は応募件数が15~21件、採用件数が4~5件であり、年度により多少の増減はあるものの、一定数以上の実績は維持している。 | | | | | |

| | | | |
|-------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業環境等 | 他団体のサービス水準との比較 (平均値との比較、本市の順位など) | <input type="checkbox"/> 上 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下 | (平成30年度調査実施)26市中19市が職員提案制度の実施有。その内3市は近年の応募実績なし。 各市の回答いただいた「応募件数」は、5件から72件と開きがあるが、平均すると25件程度で、本市は平均的な水準にある。 |
| | 代替・類似事業の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | 企画政策課「業務改善アイデア募集」 相違点:「アイデア」の募集であり具体的な改善方法がなくてもよい、提案者の所属する部署の所掌事務に関するものでよい、予算措置を必要としない、など。 |

【一次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| 事業の必要性 | 普通 | 応募件数は横ばい。一定程度の職員の注目はあると考える。 |
| 実施主体の妥当性 | 適切 | 人材育成の一環として職員課が主体となって実施する事業である。 |
| 事業(補助)の対象 | 適切 | 事業の対象としては適切である。 |
| 事業(補助)の内容 | 適切 | 事業の内容としては適切である。 |
| 受益者負担 | — | 受益者負担の考え方には、該当しない事業である。 |
| 事業コスト | 普通 | 応募件数が減少した場合には、若干のコスト増となる。 |
| 業務負担 | 普通 | 過度の負担は生じない。 |
| 一次評価 | 評価の判断理由及び現状の課題など | |
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 平成27年度の要綱改正以降、20件前後の応募件数で推移しており、大きな減少もないが、活発な応募状況とも言えないのが現状である。新規提案者の増加のため職員への制度周知を続けていくことはもちろん、制度の推進に対して組織全体の理解・協力を深めていけるかが課題であると考え。 | |

【二次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 事業の必要性 | 高い | 市民サービスの向上や業務改善に資する取組であり必要性は高いと考える。 |
| 実施主体の妥当性 | 適切 | 人材育成の一環として職員課主体で実施することが効果的と考える。 |
| 事業(補助)の対象 | 適切 | 適切な事業対象である |
| 事業(補助)の内容 | 適切 | 多くの自治体でも取り組まれており、適切な事業内容である。 |
| 受益者負担 | — | 受益者負担の考え方には、該当しない事業である。 |
| 事業コスト | 普通 | 意見照会や審査会開催に伴う人件費や褒賞の必要性については検証の必要がある。 |
| 業務負担 | 普通 | 過度の業務負担は生じていない。 |
| 二次評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題、今後改善すべき点等 | |
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 本事業は、これまでも所管課の変更や募集方法の変更、受賞者に対する褒賞の導入など、様々な工夫をしながら、合併以降事業を継続して実施し、一定の成果をあげている。これまでに採用された提案に対する取組状況のフォローや取組成果の公表などを徹底し、提案者には結果報告を行うなど、提案者のさらなる創意工夫や改善意欲の高揚を図り、本制度の定着・拡大を目指した仕組みづくりが必要と考える。 | |

【外部評価】

| 外部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 実施なし |

【行革本部評価】

| 行革本部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 本事業は、行財政改革の取組の一環として今年度実施した「業務改善アイデア募集」とは異なり、より人材育成の視点を重視したものである。採用された提案の所管課へのフォローや提案者への成果報告など、積極的な応募につなげるための改善・見直しを行い、引き続き、効果的な実施に努められたい。 |

【改善の方向性・スケジュールと改善実施にあたっての課題】

| | |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 改善の方向性・スケジュール | ◇令和4年度以降 職員自らが問題意識を持ち、課題解決や市民サービスの向上に何が必要かを考える「習慣」をつけることが必要と考える。継続的な周知で職員目の目に触れる機会を増加させるとともに、多様な研修の実施により職員の能力開発の機会を提供し、本制度の効果的な実施に努める。 |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【一次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 事業の必要性 | 高い | 職務の執行上、必要な被服のため必要性は高い。 |
| 実施主体の妥当性 | 適切 | 業者との契約(競争入札)があるため、職員課でとりまとめる必要がある。 |
| 事業(補助)の対象 | 課題有 | 会計年度任用職員の貸与や、事務職員でも外回りが必要な課がある。 |
| 事業(補助)の内容 | 適切 | 貸与の内容は適切である。 |
| 受益者負担 | — | 受益者負担の考え方には、該当しない事業である。 |
| 事業コスト | 普通 | 一括して契約を行うことでコストの抑制を図っている。 |
| 業務負担 | 普通 | 過度の負担は生じていない。 |
| 一次評価 | 評価の判断理由及び現状の課題など | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 規程等に定められていない貸与品を要望する声も例年あがっており、貸与対象の範囲の拡大や貸与サイクルの見直しが課題となっているが、現状では、予算も限られており難しい状況である。 | |

【二次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 事業の必要性 | 高い | 職務の執行上必要な被服を貸与するものであり、必要性は高い。 |
| 実施主体の妥当性 | 課題有 | 職員課で取りまとめて発注することのメリットについて検証が必要である。 |
| 事業(補助)の対象 | 課題有 | 被服貸与の実情に合わせた見直しが必要である。 |
| 事業(補助)の内容 | 課題有 | 貸与品の実情に合わせた見直しが必要である。 |
| 受益者負担 | — | 受益者負担の考え方には、該当しない事業である。 |
| 事業コスト | 普通 | 一括発注と個別発注のコスト比較などの検証は必要と考える。 |
| 業務負担 | 普通 | 各課要望の集約や貸与品の選定、調整等、一定の業務負担はあると考える。 |
| 二次評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題、今後改善すべき点等 | |
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 本事業は、職員に対し職務の執行上必要な被服を貸与するものであるが、異動時や退職した際に職員からの返却を求めているが、返却後の再使用を含めた事業の見直しが必要である。また、被服貸与にあたっては業務実態に見合った貸与品を選定する必要があると考えるが、対外的にも統一感のある制服として貸与すべきもの、内部的な作業服、トレーニングウェアとして貸与すべきもの、日常的に着用するもので本来職員本人が購入すべきものなどを整理・検証し、見直しを図る必要がある。 | |

【外部評価】

| 外部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 実施なし |

【行革本部評価】

| 行革本部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 作業服や防寒服等の貸与は安全かつ効率的に職務を遂行するうえで必要である。一方で現在、被服貸与の対象と現場のニーズが一致していないなど課題もあることから、各課の業務実態を踏まえ、貸与の対象とする職種や貸与サイクルなど、必要な見直しを図られたい。 |

【改善の方向性・スケジュールと改善実施にあたっての課題】

| | |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 改善の方向性・スケジュール | ◇令和4年度以降 被貸与者の職種、貸与サイクルなど、近隣自治体の最新の貸与状況を調査するとともに、貸与品(ニーズとの不一致)等の課題や退職等により返納された被服の効率的・効果的な運用方法について検討を行う。 |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

事務事業評価シート(事後評価)

| | | |
|-----|---------|-------|
| No. | 事務事業名 | 所管部課 |
| 5 | 保養施設事業費 | 保険年金課 |

| | | | | |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 事務事業の概要 | 事業の目的 | | 根拠法令等 | |
| | 西東京市国民健康保険及び後期高齢者医療の被保険者の利用に供することにより、被保険者の健康の保持増進を図る。 ○国民健康保険被保険者対象 ⇒「西東京市国民健康保険保養施設利用規則」 ○後期高齢者医療被保険者対象 ⇒「西東京市後期高齢者医療保険保養施設利用補助要綱」 | | <input type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input checked="" type="checkbox"/> 条例・規則・規程 <input checked="" type="checkbox"/> 要綱・要領 | |
| | 事業の概要 | | | |
| | 市が契約する保養施設を利用する被保険者に対し、以下のとおり宿泊費用の助成を行う。 1 契約保養施設 令和3年度:38箇所 令和2年度:43箇所 令和元年度:50箇所 平成30年度:55箇所 2 助成金額 (1) 満13歳以上の被保険者 1人1泊につき 3,000円 (2) 満3歳以上満13歳未満の被保険者 1人1泊につき 2,000円(国保のみ) 3 利用限度 被保険者1人につき、毎年4月1日から翌年3月31日までの間に3回を限度とし、1回の利用の申込みは3泊以内とする。 【参考】本事業の対象となる被保険者数(令和2年末時点) 合計 66,740人 ・国民健康保険保健被保険者数 41,156人 ・後期高齢者医療被保険者数 25,584人 | | | |
| 事業開始時期 | 合併以前 | 実施形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 () | |

| 項目 | 単位 | 平成30年度 (決算額) | 令和元年度 (決算額) | 令和2年度 (決算見込み額) | 令和3年度 (当初予算額) |
|---------------------------------|----|-----------------|----------------|-------------------|------------------|
| 事業費(A) | 千円 | 4,021 | 3,260 | 1,175 | 2,400 |
| 内訳 | | | | | |
| 主要な経費: 宿泊助成費 | | 4,021 | 3,260 | 1,175 | 2,400 |
| その他: なし | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源 | | | | | |
| 内訳 | | | | | |
| 国庫支出金・都支出金 | | | | | |
| 地方債 | | | | | |
| その他 (一般会計繰入金) | | 4,021 | 3,260 | 1,175 | 2,400 |
| 一般財源 | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 所要人員(B) 別添「所要人員算出表」参照 | 人 | 0.20 | 0.20 | 0.20 | 0.20 |
| 人件費(C)=平均給与×(B) | 千円 | 1,546 | 1,511 | 1,469 | 1,469 |
| 総コスト(D)=(A)+(C) | 千円 | 5,567 | 4,771 | 2,644 | 3,869 |
| 単位当たりコスト(E) (E)=(D)÷(宿泊人数) | 円 | 5,512 | 6,109 | 10,706 | 6,910 |

| 指標名 | 単位 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------|-------|-------|-------|
| ①宿泊人数 | 実績値※ 人 | 1,010 | 781 | 247 | 560 |
| ②宿泊日数 | 実績値※ 泊 | 1,345 | 1,088 | 392 | 800 |
| 《指標とした数値変化に対する要因分析など》 事業規模は毎年度縮小の傾向にある。特に令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う、緊急事態宣言の発令などの影響により、令和元年度の利用実績の3割程度まで落ち込んだ。 ※宿泊人数・宿泊日数は国民健康保険と後期高齢者医療の合計値である。また、令和3年度は当初予算における見込数値である。 | | | | | |

| | | | |
|-------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 事業環境等 | 他団体のサービス水準との比較 (平均値との比較、本市の順位など) | <input checked="" type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下 | 多摩26市において、同様の宿泊費助成事業を実施している市は本市を含め3市、過去に助成事業を行っていたが廃止した市が9市といった状況である。 |
| | 代替・類似事業の有無 | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 平成30年度をもって、西東京市姉妹都市・友好都市施設利用助成金交付要綱による宿泊費用助成制度が廃止された。 |

【一次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 事業の必要性 | 低い | 被保険者の健康の保持増進の観点から必要不可欠な事業とは言い難い。 |
| 実施主体の妥当性 | 課題有 | 市が利用者の宿泊費の一部を助成する必要性が希薄である。 |
| 事業(補助)の対象 | 課題有 | 広く被保険者を対象とした事業ではあるが、利用実態に鑑み、課題有と考える。 |
| 事業(補助)の内容 | 課題有 | 宿泊費用の一部助成ではあるが、利用実態に鑑み、課題有と考える。 |
| 受益者負担 | — | 宿泊料(本人負担)に対する一部助成であり、受益者負担の考え方には該当しない。 |
| 事業コスト | 高い | 他自治体と比較してサービス水準が高く、高コストである。 |
| 業務負担 | 重い | 一部の被保険者の利用に留まっており、業務負担に対し実施効果が少ない。 |
| 一次評価 | 評価の判断理由及び現状の課題など | |
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 利用実態を踏まえ、近年、当該事業の利用が縮小傾向にあることや特定の被保険者が利用している傾向が見られることから、被保険者全体の健康増進に寄与しているとは言い難い。したがって、事業の実施目的や効果検証を踏まえ、抜本的な見直しが必要と考える。 | |

【二次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 事業の必要性 | 低い | 本事業の利用実態に鑑み、必要性は低いと考える。 |
| 実施主体の妥当性 | 課題有 | 被保険者の健康の保持増進に寄与する取組とは言い難く、課題がある。 |
| 事業(補助)の対象 | 課題有 | 利用実態として、ごく一部の被保険者の利用に留まっており、課題がある。 |
| 事業(補助)の内容 | 課題有 | 宿泊費用の一部助成ではあるが、利用実態に鑑み、課題がある。 |
| 受益者負担 | — | 宿泊料(本人負担)に対する一部助成であり、受益者負担の考え方には該当しない。 |
| 事業コスト | 高い | 他自治体と比較してサービス水準が高く、高コストである。 |
| 業務負担 | 重い | 業務量に対し事業の実施効果が見えず、業務負担は重いものとする。 |
| 二次評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題、今後改善すべき点等 | |
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 | 本事業は、西東京市の国民健康保険及び後期高齢者医療保険の被保険者が市の契約する保養施設に宿泊した際の費用の一部を助成するものであり、当該助成費の財源は被保険者の保険料ではなく、市の一般会計からの繰入金で充てられている。利用の実態として全被保険者数のうち1%前後と、ごく一部の利用に留まっていることや特定の被保険者が繰り返し利用している傾向があることから、税負担の公平性の観点からも課題があるものとする。被保険者全体の健康保持に資するアプローチ等を積極的に行うことに重点を置くべきであり、本事業については廃止すべきと考える。 | |

【外部評価】

| 外部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 実施なし |

【行革本部評価】

| 行革本部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 | 本事業は、保養施設に宿泊した際の費用の一部を助成するものであるが、当該助成費の財源は被保険者の保険料ではなく、一般会計からの繰入金で充てられている。他自治体における同種事業の実施が非常に少ないことや、本制度の利用実態として全被保険者数のうち、ごく一部の利用に留まっていることから、税負担の公平性の観点から課題がある。本事業については廃止し、合わせて被保険者全体の健康保持に資する効果的なアプローチについて検討されたい。 |

【改善の方向性・スケジュールと改善実施にあたっての課題】

| | |
|---------------|----------------------------------------------|
| 改善の方向性・スケジュール | ◇令和4年度 令和5年度の制度廃止について周知 ◇令和5年度 制度廃止 |
|---------------|----------------------------------------------|

事務事業評価シート(事後評価)

| | | |
|-----|------------------|-------|
| No. | 事務事業名 | 所管部課 |
| 6 | 一般管理事務費(教育委員会広報) | 教育企画課 |

| | | |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務事業の概要 | 事業の目的 | 根拠法令等 |
| | 西東京市の教育に関する事項を市民に知らせることで市民の理解と協力の向上を図り、市の教育の一層の充実と発展を目指すために、西東京市教育委員会広報を発行する(西東京市教育委員会広報発行規程)。 | <input checked="" type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input checked="" type="checkbox"/> 条例・規則・規程 <input type="checkbox"/> 要綱・要領 |
| | 事業の概要 | |
| | <p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第18号に基づき、教育委員会の所掌事務に係る広報を行うもので、西東京市における教育行政の諸施策に関して、「西東京の教育」を年4回(5月、7月、11月、3月)発行し、時期に応じた内容の広報紙を発行している。</p> <p>毎号、市内全世帯へ配布するほか、市の施設や学校などに配布しており、効果的な情報提供に努めている。</p> <p>なお、各世帯への配布については、シルバー人材センターに委託し、同日に発行される「広報西東京」に折りこみ形で行っており、市の情報と併せて効果的な情報提供を図っている。また、市ホームページでの紙面データの掲載のほか、市SNSにおいて発行情報を掲載するなど、効果的な周知に努めている。</p> <p>また、平成29年度には、紙面構成や掲載希望記事などに対する市民の意見を把握するために市政モニターによる調査を実施した。その結果を参考意見としつつ、令和元年度から紙面のレイアウトや内容をリニューアルして効果的な情報発信に努めている。</p> | |
| 事業開始時期 | 合併以前 | 実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 () |

| 項目 | 単位 | 平成30年度 (決算額) | 令和元年度 (決算額) | 令和2年度 (決算見込み額) | 令和3年度 (当初予算額) |
|-------------------|----|-----------------|----------------|-------------------|------------------|
| 事業費(A) | 千円 | 3,090 | 3,401 | 3,374 | 3,829 |
| 内訳 | | | | | |
| 主要な経費: 教育広報配布委託料 | | 1,898 | 2,003 | 2,068 | 2,115 |
| その他: 印刷製本費 | | 1,192 | 1,398 | 1,306 | 1,714 |
| 財源内訳 | | | | | |
| 国庫支出金・都支出金 | | | | | |
| 地方債 | | | | | |
| その他 () | | | | | |
| 一般財源 | | 3,090 | 3,401 | 3,374 | 3,829 |
| 所要人員(B) | 人 | 0.20 | 0.20 | 0.20 | 0.20 |
| 人件費(C)=平均給与×(B) | 千円 | 1,546 | 1,511 | 1,469 | 1,469 |
| 総コスト(D)=(A)+(C) | 千円 | 4,636 | 4,912 | 4,843 | 5,298 |
| 単位当たりコスト(E) | | | | | |
| (E)=(D)÷(①発行部数) | 千円 | 0.012 | 0.012 | 0.012 | 0.013 |

| 指標名 | 単位 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-----------------------|--------|---------|---------|---------|---------|
| ①発行部数 | 実績値※ 部 | 392,400 | 399,200 | 402,400 | 410,000 |
| ②発行回数 | 実績値※ 回 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 《指標とした数値変化に対する要因分析など》 | | | | | |
| ①発行部数は世帯数増に伴い増加している。 | | | | | |
| ※令和3年度は当初予算における見込み数値 | | | | | |

| | | | |
|-------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業環境等 | 他団体のサービス水準との比較 (平均値との比較、本市の順位など) | <input checked="" type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下 | ほとんどの自治体が広報紙をホームページと併用して活用しており、タブロイド版やカラー印刷など読みやすい紙面作成に努めている。広報紙による広報は24市で行われており、発行回数は年2回～4回程度が多くなっているが、本市と同様に年4回全戸配布を行っている市は3市となっている。 |
| | 代替・類似事業の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | 広報西東京 西東京市ホームページ |

【一次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|
| 事業の必要性 | 普通 | 教育の一層の充実と発展を目指し、市民の理解と協力を得るために必要である。 |
| 実施主体の妥当性 | 適切 | 教育委員会が主体となり、印刷・配布を委託しており、適切と考える。 |
| 事業(補助)の対象 | 適切 | 全市民を対象に広く公平に教育委員会の情報を提供しており、適切と考える。 |
| 事業(補助)の内容 | 適切 | 市政モニター調査で年4回の発行を求める声が多く、発行回数・部数とも適切と考える。 |
| 受益者負担 | — | 受益者負担の考え方には、該当しない事業と考える。 |
| 事業コスト | 普通 | 世帯数の増加に伴い若干のコスト増が見られる。 |
| 業務負担 | 普通 | 実施負担相応の実施効果である。 |
| 一次評価 | 評価の判断理由及び現状の課題など | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 正しい世論に基づいて教育行政を運営していくためには、教育行政に対する正しい理解を得るとともに、教育行政の内容を市民に周知することが必要である。市政モニターの調査結果を参考意見としつつ、見やすい紙面レイアウトや内容の工夫に取り組んでおり、西東京市における教育行政の重点施策や、魅力的な取組を積極的に掲載することで、市民の理解と協力の向上を図ることができる。また、調査結果からは年4回の発行を求める声が多く、継続実施すべき事業と考える。 | |

【二次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 事業の必要性 | 普通 | 教育は、学校関係者のみでなく、市民全体で取り組むことが重要である。 |
| 実施主体の妥当性 | 適切 | 市教育委員会の広報であり、市が主体となって実施する必要がある。 |
| 事業(補助)の対象 | 適切 | 教育は、市民全体で取り組む必要があるため、適切である。 |
| 事業(補助)の内容 | 適切 | 広報内容・発行回数・部数とも適切である。 |
| 受益者負担 | — | 受益者負担の考え方には、該当しない事業と考える。 |
| 事業コスト | 普通 | 全世帯へ配布していることも考えると標準的な水準である。 |
| 業務負担 | 普通 | 標準的な事務負担である。 |
| 二次評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題、今後改善すべき点等 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 教育に関することは、市民全体で情報共有し、取り組んでいくことが重要である。そのため、教育に特化した情報提供を行う媒体として「西東京の教育」の価値は高いと考える。紙面レイアウトや掲載内容、発行回数についても市政モニターの調査結果を参考意見としつつ改善・見直しに取り組んでおり、事業の継続実施は妥当であると考える。今後の課題として、紙媒体での情報発信と並行し電子媒体の活用等が考えられるが、当面は、市民意見などを取り入れながら、より良い広報誌の作成に努めるとともに、効率的・効果的に事業を実施していただきたい。 | |

【外部評価】

| 外部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 実施なし |

【行革本部評価】

| 行革本部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 「西東京の教育」は「広報西東京」とともに市の教育情報を広く市民の皆様へ周知するための重要な広報媒体の一つである。今後は、行政のデジタル化の進捗に合わせて紙媒体から電子媒体への移行も視野に入れつつ、引き続き、より良い広報誌の作成に努められたい。 |

【改善の方向性・スケジュールと改善実施にあたっての課題】

| | |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 改善の方向性・スケジュール | 「西東京の教育」は、紙媒体による配布のほか、市ホームページ上で公開をしている。今後も幅広い年齢層への周知を図るため、電子媒体やSNS等を有効に活用しつつ、効果的な広報活動に努める。 |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|

事務事業評価シート(事後評価)

| | | |
|-----|-----------------------------|-------|
| No. | 事務事業名 | 所管部課 |
| 7 | 情報教育推進事業(GIGAスクール タブレットの活用) | 教育指導課 |

| | | | |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務事業の概要 | 事業の目的 | | 根拠法令等 |
| | 西東京市GIGAスクール構想を推進するため、令和2年度に整備したタブレット端末及び高速大容量の学校ネットワーク環境等を活用し、児童・生徒及び職員が西東京市立学校での活動及び各家庭における学習活動でタブレット端末を利用する。これにより、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたち一人ひとりに個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。 | | <input type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input type="checkbox"/> 条例・規則・規程 <input checked="" type="checkbox"/> 要綱・要領 |
| | 事業の概要 | | |
| | (1) 事業内容 ①タブレット端末、通信機器の貸与 ②学校ネットワーク環境の整備 ③タブレット端末、通信機器、学校ネットワーク環境の保守・管理 ④ソフトウェア、オンライン学習用コンテンツの導入・管理 ⑤情報関連機器・消耗品等の調達(購入・リース)、設置、返却等 ⑥職員向け研修の実施 ⑦ICT支援員の配置 ⑧GIGAスクール構想実施に伴う学校情報セキュリティポリシーの見直し (2) 貸与内容 ①西東京市立学校に在籍する児童・生徒を養育する保護者及び西東京市立学校に勤務する職員にタブレット端末を貸与する。 ②西東京市立学校に在籍する児童・生徒を養育する保護者で、家庭にインターネット環境がなく、要保護世帯または準要保護世帯の保護者に家庭でインターネット接続するための通信機器を貸与する。 | | |
| 事業開始時期 | 令和3年4月 | 実施形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 () |

| 項目 | 単位 | 平成30年度 (決算額) | 令和元年度 (決算額) | 令和2年度 (決算見込み額) | 令和3年度 (当初予算額) |
|--------------------------------------|----|-----------------|----------------|-------------------|------------------|
| 事業費(A) | 千円 | | | 1,088,631 | 145,412 |
| 内訳 | | | | 209,405 | 112,734 |
| 主要な経費: 委託料 | | | | | |
| その他: 備品購入費、役務費他 | | 0 | 0 | 879,226 | 32,678 |
| 財源内訳 | 千円 | | | 547,794 | 19,539 |
| 国庫支出金・都支出金 | | | | | |
| 地方債 | | | | | |
| その他 () | | | | | |
| 一般財源 | 0 | 0 | 540,837 | 125,873 | |
| 所要人員(B) | 人 | | | 1.8 | 2.3 |
| 人件費(C)=平均給与×(B) | 千円 | 0 | 0 | 13,225 | 16,898 |
| 総コスト(D)=(A)+(C) | 千円 | 0 | 0 | 1,101,856 | 162,310 |
| 単位当たりコスト(E) (E)=(D)÷(①児童・生徒の人数) | 千円 | — | — | 79 | 12 |

| 指標名 | 単位 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|--------------------------------|-------|--------|-------|--------|--------|
| ①児童・生徒の人数 | 実績値 人 | — | — | 13,959 | 14,095 |
| — | 実績値 — | — | — | — | — |
| 《指標とした数値変化に対する要因分析など》 | | | | | |
| ①タブレット端末を利用する児童・生徒の人数は増加傾向にある。 | | | | | |

| | | | |
|-------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 事業環境等 | 他団体のサービス水準との比較 (平均値との比較、本市の順位など) | <input type="checkbox"/> 上 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下 | (タブレット端末の整備)26市 (通信機器の貸出)10市 |
| | 代替・類似事業の有無 | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | |

【一次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 事業の必要性 | 高い | 義務教育において実施する内容のため、必要不可欠な事業である。 |
| 実施主体の妥当性 | 適切 | 義務教育において実施する内容のため、市が主体となって実施する必要がある。 |
| 事業(補助)の対象 | 適切 | 児童・生徒を養育する保護者等を対象としており適切である。 |
| 事業(補助)の内容 | 適切 | 児童・生徒に一人一台のタブレット端末を貸与しており適切である。 |
| 受益者負担 | — | 義務教育として実施する内容のため、受益者負担の考え方に該当しない。 |
| 事業コスト | 普通 | 他自治体と比較して標準的なコストである。 |
| 業務負担 | 普通 | 事務負担相応の実施効果がある。 |
| 一次評価 | 評価の判断理由及び現状の課題など | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | GIGAスクール構想は、国の方針に基づき義務教育において実施する内容のため、その実施環境の質を保ちつつ維持・管理するためのコストについては、必要不可欠なものである。将来的には、タブレット端末のバッテリー交換、故障時の代替機の調達や修繕、利用するソフトウェアの更新費用等について見込んでおく必要がある。 | |

【二次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 事業の必要性 | 高い | 義務教育において実施される内容であるため、必要不可欠な事業である。 |
| 実施主体の妥当性 | 適切 | 義務教育において実施される内容であるため、市が主体となって実施する必要がある。 |
| 事業(補助)の対象 | 適切 | 児童・生徒を養育する保護者等を対象としており適切である。 |
| 事業(補助)の内容 | 適切 | 児童・生徒に一人一台のタブレット端末を貸与しており適切である。 |
| 受益者負担 | — | 義務教育において実施する内容のため、受益者負担を求める事業ではない。 |
| 事業コスト | 普通 | 他自治体と比較して標準的なコストである。 |
| 業務負担 | 普通 | 事務負担相応の実施効果が期待できる。 |
| 二次評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題、今後改善すべき点等 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | GIGAスクール構想を推進するため、1人1台タブレット端末等の貸与や学校ネットワーク環境の整備は、子どもたちの資質・能力を育成するとともに、新しい生活様式への対応や、やむを得ず学校に登校できない児童・生徒等が学習活動へ参加する機会となるなど、多様な子どもたちの個別最適な学びに寄与する事業である。一方で、貸与するタブレット端末はメンテナンスや機器等の更新費用など、実施環境の維持・管理に多額のコストが必要になるため、適切な運用とともに、費用面においても計画的かつ効率的な対応が求められる。 | |

【外部評価】

| 外部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 実施なし |

【行革本部評価】

| 行革本部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | GIGAスクール構想に基づき、1人1台の端末が配布され、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない個別最適化された学びを目指す環境が整備された。今後は、補助対象外のランニングコストを計画的に管理し、効果的・効率的で持続可能な学校ICT環境を構築するため、学校と連携を図りながら取組を進められたい。 |

【改善の方向性・スケジュールと改善実施にあたっての課題】

| | |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 改善の方向性・スケジュール | 今後、代替機の調達や修繕対応のほか、タブレット端末のバッテリー交換を計画的に進めていく必要がある。また、導入から一定期間が経過した端末については、複数年度で段階的に入れ替えるなど、効率的な手法について検討を進めていく。 |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

事務事業評価シート(事後評価)

| | | |
|-----|----------|------|
| No. | 事務事業名 | 所管部課 |
| 8 | 図書館運営管理費 | 図書館 |

| | | | |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務事業の概要 | 事業の目的 | | 根拠法令等 |
| | 社会教育法及び図書館法の規定に基づき、国民の教育と文化の発展に寄与することを目的としつつ、西東京市図書館設置条例施行規則第2条に規定する事業のうち、図書資料、視聴覚資料及び障害者用資料及びその他必要な資料の収集、整理及び保存、並びに同資料の選定、発注及び購入に関する管理・運営を担い、もって図書館の目的達成に寄与することを目的とする。 | | <input checked="" type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input type="checkbox"/> 条例・規則・規程 <input type="checkbox"/> 要綱・要領 |
| | 事業の概要 | | |
| | 図書館専門員の配置や図書その他の資料収集・整理等、図書館の管理運営に関する以下の事務を行う。 ※西東京市図書館設置条例施行規則第2条に規定する事業に関する事務のうち、以下の事務 <ul style="list-style-type: none"> ・各館における利用者サービスにおいて必要とする人員の配置(会計年度任用職員の任用等)に関する事務 ・図書資料、視聴覚資料及び障害者用資料及びその他必要な資料の収集、整理及び保存に関する事務 ・図書館資料の個人及び団体(読書その他の文化活動等を行う団体をいう。以下同じ。)への貸出しに関する事務 ・レファレンス及び読書相談に関する事務 ・子供会、読書会、講演会及び資料展示会等の開催に関する事務 ・各種文庫及び地域図書館活動に対する協力及び援助に関する事務 ・講座室の貸出しに関する事務 ・読書に関する資料の刊行及び配布に関する事務 ・時事に関する情報及び参考資料の紹介並びに提供に関する事務 ・学校、公民館、児童館、保育園、博物館及び研究所等との連携及び協力に関する事務 ・他の図書館との連絡、協力及び図書館資料の相互貸借に関する事務 | | |
| 事業開始時期 | 合併以前 | 実施形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 () |

| 項目 | 単位 | 平成30年度 (決算額) | 令和元年度 (決算額) | 令和2年度 (決算見込み額) | 令和3年度 (当初予算額) |
|---------------------------------------|----|-----------------|----------------|-------------------|------------------|
| 事業費(A) | 千円 | 187,078 | 185,455 | 203,131 | 185,741 |
| 内訳 | | | | | |
| 主要な経費：報酬、需用費 その他：手当、委託料ほか | | 168,516 | 165,474 | 166,993 | 152,221 |
| 財源 | 千円 | | | | |
| 内訳 | | | | | |
| 国庫支出金・都支出金 地方債 その他 (新座市負担金ほか) | | 5,288 | 12,172 | 33,707 | 6,898 |
| 一般財源 | | 181,790 | 173,283 | 169,424 | 178,843 |
| 所要人員(B) | 人 | 23.31 | 23.31 | 23.31 | 23.31 |
| 人件費(C)=平均給与×(B) | 千円 | 180,233 | 176,084 | 171,259 | 171,259 |
| 総コスト(D)=(A)+(C) | 千円 | 367,311 | 361,539 | 374,390 | 357,000 |
| 単位当たりコスト(E) (E)=(D)÷(①貸出冊数) | 円 | 169 | 186 | 218 | 210 |

| 指標名 | 単位 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------|-----------|-----------|-----------|
| ①貸出冊数 | 冊 | 2,178,283 | 1,948,305 | 1,714,416 | 1,700,000 |
| ②予約件数 | 件 | 755,031 | 708,456 | 647,248 | 620,000 |
| 《指標とした数値変化に対する要因分析など》※令和3年度は当初予算における見込み数値 毎年度図書資料の新刊購入、廃棄を実施することで蔵書が刷新され、市民が必要とする情報、資料の提供が可能となる。こうした取組の成果を図る指標として貸出冊数、予約件数を設定する。 令和2年度の実績値が減少した理由は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う緊急事態宣言による休館が大きく影響しており、令和3年度も同様の影響が続くものと見込んでいる。 | | | | | |

| | | | |
|-------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業環境等 | 他団体のサービス水準との比較 (平均値との比較、本市の順位など) | <input checked="" type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下 | 多摩26市における図書館運営管理に係る予算(令和元年度決算)では中位(市民一人当たりの図書費では13位)となるものの、市民一人当たりの利用状況では上位(市民一人当たりの貸出冊数では6位、市民一人当たりの予約件数では2位)であり、効率的・効果的に事業実施されているものと考えられる。 |
| | 代替・類似事業の有無 | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 代替可能な事業はない。 |

【一次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 事業の必要性 | 高い | 市民の利用に供し、教養、調査研究、レクリエーション等に資する施設である必要がある。 |
| 実施主体の妥当性 | 適切 | 市が主体となって実施する必要がある。 |
| 事業(補助)の対象 | 適切 | 西東京市図書館設置条例施行規則第5条に規定する住民が対象であり適切である。 |
| 事業(補助)の内容 | 適切 | 図書館法に基づく事業であり適切である。 |
| 受益者負担 | — | 受益者負担の考え方には、該当しない事業である。 |
| 事業コスト | 普通 | 単位当たりコストは26市比較で上位にあり、効率的に実施されている。 |
| 業務負担 | 重い | 利用者に直結するサービス(貸出・予約・レファレンス等)と、それを支えるための作業が多く負担は大きい。 |
| 一次評価 | 評価の判断理由及び現状の課題など | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 西東京市図書館は、図書館法に基づいて住民のために資料や情報の提供等直接的な学習援助を行う機関であり、平成24年12月文部科学省告示第172号「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に沿うように努めながら、教育計画及び図書館計画に基づいて運営している。 | |

【二次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 事業の必要性 | 高い | 基礎的な市民サービスであり必要性は高い。 |
| 実施主体の妥当性 | 適切 | 市が主体となって実施する必要がある。 |
| 事業(補助)の対象 | 適切 | 広く住民を対象とした事業であり適切である。 |
| 事業(補助)の内容 | 適切 | 法令等に基づき設置、運営されており、適切である。 |
| 受益者負担 | — | 受益者負担の考え方には、該当しない事業である。 |
| 事業コスト | 普通 | 事業規模は大きいですが、住民一人あたり図書費で見ると標準的なコストである。 |
| 業務負担 | 普通 | 図書館の標準的な業務内容である。 |
| 二次評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題、今後改善すべき点等 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 本事業は、図書館法及び西東京市図書館設置条例施行規則の規定に基づき実施されており、事業費全体では多摩26市において中位の水準となっている。本市の図書館運営は、図書資料の提供等による利用者サービスの質を重視しており、図書資料(図書・雑誌・新聞等)の費用について、事業費全体に占める割合が多摩26市でも高い水準にある。今後も限られた予算内で計画的な図書館運営に努めるとともに、新たな取組を行う際は、利用者の利便性とサービスの質のバランスを見ながら検討する必要がある。 | |

【外部評価】

| 外部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 実施なし |

【行革本部評価】

| 行革本部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 | 本市の図書館運営は、多摩26市における運営管理に係る予算は中位であるものの、市民一人当たりの予約冊数では上位であり、バランスのとれた運営がなされている。今後コロナ禍の収束とともに、市民の新たな生活様式に対応した効率的・効果的な図書館運営を行いたい。 |

【改善の方向性・スケジュールと改善実施にあたっての課題】

| | |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 改善の方向性・スケジュール | ◇令和4年度以降 レファレンス機能強化の一環として設置するデータベース専用席の利用状況を検証し、利用拡大に努める。また、効率的・効果的な運営に努め、図書館利用者数の回復に取り組む。 |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|

事務事業評価(事前評価)シート

| | | |
|-----|---------|------|
| No. | 事務事業名 | 所管部課 |
| 9 | 開館時間の延長 | 図書館 |

| | | |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事務事業の概要 | 事業の目的 | 根拠法令等 |
| | 図書館協議会答申（令和2年11月、以下「答申」という。）により、西東京市図書館設置条例施行規則第3条に規定する開館時間について、中央図書館の午前9時開館及び西東京市図書館設置条例施行規則第4条に規定する休館日のうち芝久保図書館並びに谷戸図書館の祝日開館をすることにより、市民サービスの拡充を図る。 | <input type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input checked="" type="checkbox"/> 条例・規則・規程 <input type="checkbox"/> 要綱・要領 |
| | 事業の概要 | |
| | <p>◆中央図書館の開館時間拡大について （現行の開館時間） （検討プラン） 火曜日から金曜日まで：午前10時から午後8時まで ⇒ 午前9時から午後8時まで 土曜日、日曜日及び祝日：午前10時から午後6時まで ⇒ 午前9時から午後6時まで</p> <p>■検討内容と課題 高齢者を中心としたこれまでの利用者アンケートでの要望による、中央図書館の開館時間拡大に向けて、既存職員の人員配置及び勤務シフトの変更で対応ができるかを検討した。 市の財政的な負担も考慮しつつ、図書館専門員の新規配置は行わない前提で検討したが、現状の既存職員のみでの対応は困難であり、図書館専門員の増員が必要であるとの結論に至った。</p> <p>◆芝久保・谷戸図書館の開館日の拡大（祝日の開館）について （現行の休館日） （検討プラン） 祝日及び月曜日 ⇒ 月曜日</p> <p>■検討内容と課題 休日開館により一定数市民の図書館利用は増加すると思われるものの、業務量の増大による職員体制への影響を考慮すると、新規の図書館専門員の配置が前提となる。 また、中央図書館からの協力体制も必要となることが想定され、業務負担の増加も課題となる。</p> | |
| 事業開始時期 | 未定 | 実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 () |

| | 項目 | 単位 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | |
|--------|--------------------|----|---------------|---------|----------|---------|---------|
| | | | (決算額) | (決算額) | (決算見込み額) | (当初予算額) | |
| 事業費データ | 事業費(A) | 千円 | 187,078 | 185,455 | 203,131 | 185,741 | |
| | 内訳 | | 主要な経費：報酬・需用費 | 168,516 | 165,474 | 166,993 | 152,221 |
| | | | その他：手当・委託料ほか | 18,562 | 19,981 | 36,138 | 33,520 |
| | 財源 | | 国庫支出金・都支出金 | | | | |
| | 内訳 | | 地方債 | | | | |
| | | | その他（新座市負担金ほか） | 5,288 | 12,172 | 33,707 | 6,898 |
| | | | 一般財源 | 181,790 | 173,283 | 169,424 | 178,843 |
| | 所要人員(B) | 人 | 23.31 | 23.31 | 23.31 | 23.31 | |
| | 人件費(C)=平均給与×(B) | 千円 | 180,233 | 176,084 | 171,259 | 171,259 | |
| | 総コスト(D)=(A)+(C) | 千円 | 367,311 | 361,539 | 374,390 | 357,000 | |
| | 単位当たりコスト(E) | | | | | | |
| | (E)=(D)/ (①貸出冊数) | 円 | 169 | 186 | 218 | 210 | |

| | 指標名 | | 単位 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------|-----|---------|-----------|-----------|-----------|
| | 評価指標 | ①貸出冊数 | 実績値 | 冊 | 2,178,283 | 1,948,305 | 1,714,416 |
| ②予約件数 | | 実績値 | 件 | 755,031 | 708,456 | 647,248 | 620,000 |
| 《指標とした数値変化に対する要因分析など》 令和元年度の後半に、図書館システムの入替えにより約2週間の臨時休館を実施、3月から新型コロナウイルス感染拡大防止策としてさらに休館が延長したため、貸出冊数及び予約件数が減少した。令和2年度も引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の措置として休館（各館入口にて予約資料の受け渡しは実施）等の対応を図ったため、貸出冊数等が減少した。 | | | | | | | |

| | | | |
|-------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業環境等 | 他団体のサービス水準との比較 (平均値との比較、本市の順位など) | <input type="checkbox"/> 上 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下 | 多摩26市の中央図書館の開館時間は、午前9時5市、午前9時30分6市、午前10時15市となっている。閉館時間は午後5時から午後10時まで幅があるが、本市は平均的な水準である（令和2年3月末時点）。 |
| | 代替・類似事業の有無 | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | |

【一次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 事業の必要性 | 普通 | 図書館の利用拡大に資する取組ではあるが、優先度が高いとは言えない。 |
| 実施主体の妥当性 | 適切 | 図書館が主体となって実施する事業である。 |
| 事業（補助）の対象 | 適切 | 広く市民を対象とした事業であり適切である。 |
| 事業（補助）の内容 | 課題有 | 拡大により光熱費・人件費等の増加が見込まれる。 |
| 受益者負担 | — | 受益者負担の考え方には、該当しない事業である。 |
| 事業コスト | 高い | 図書館専門員の増員が必要であり、多額の人件費が見込まれる。 |
| 業務負担 | 重い | 新規の人員配置と合わせ、地域館への応援体制の構築も必須であり業務負担は大きい。 |
| 一次評価 | 評価の判断理由及び現状の課題など | |
| <input type="checkbox"/> 事業化 <input checked="" type="checkbox"/> 実施を延期 <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 計画を中止 | 検討の結果、中央図書館開館時間の延長、芝久保図書館、谷戸図書館の祝日開館を実施するにあたっては、いずれも職員のシフト変更だけでは対応しきれず、職員もしくは図書館専門員の増員が必要となる。新型コロナウイルス感染症対策による市財政への影響や図書館等における感染症対策の実施内容を踏まえた場合、財政負担の増加を伴う開館時間の拡大は実施困難であり、引き続き検討していく必要があるものとする。 | |

【二次評価】

| 検証項目 | 判定 | 判定理由 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|
| 事業の必要性 | 低い | 利用者の要望を精査しきれておらず、運営の見直しが必要であり優先度は低いと考える。 |
| 実施主体の妥当性 | 適切 | 図書館が主体となって実施する事業である。 |
| 事業（補助）の対象 | 適切 | 広く市民を対象とした事業であり適切である。 |
| 事業（補助）の内容 | 課題有 | 利用時間の拡大が費用対効果に見合うかの課題がある。 |
| 受益者負担 | — | 受益者負担の考え方には、該当しない事業と考える。 |
| 事業コスト | 高い | 利用時間の拡大に伴う、管理運営費等の増大は費用対効果に見合わないとする。 |
| 業務負担 | 重い | 現状の既存職員のみでの対応は困難であり、職員の増員が必要である。 |
| 二次評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題、今後改善すべき点等 | |
| <input type="checkbox"/> 事業化 <input checked="" type="checkbox"/> 実施を延期 <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 計画を中止 | 図書館運営における現在のサービス水準は、他市と比較しても中位であり、人員体制もシフトの工夫等により、費用とサービス水準のバランスが取れた運営が行われている。開館時間を拡大するためには、職員を増員する必要があるが、費用対効果の視点からも改めて検討する必要がある。なお、開館時間の拡大を検討するにあたっては、コロナ禍におけるライフスタイル等の変化も踏まえ、改めて利用者の意見を集約する必要があると思われる。 | |

【外部評価】

| 外部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> 事業化 <input type="checkbox"/> 実施を延期 <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 計画を中止 | 実施なし |

【行革本部評価】

| 行革本部評価 | 評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 事業化 <input type="checkbox"/> 実施を延期 <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 計画を中止 | 図書館サービスの充実に関しては、単に図書館の開館日・開館時間の充実を図ることだけでなく、自宅等にいながらにしてサービスを楽しむなど、サービスの質の向上自体を考える必要がある。限られた財源をどのように振り向けるのかも含め、図書館サービス全体を俯瞰する中で、優先順位を見極めていく必要がある。 |

【今後の方向性・スケジュールと方向性に沿った取組を実施するにあたっての課題】

| | |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 今後の方向性・スケジュール | ◇令和4年度以降 行財政改革推進本部評価を踏まえ、図書館事業全体における優先順位を考えながら、改めて議論する。より良い図書館サービスを提供していくため、開館時間についても次期図書館計画の策定を進めるなかで一定の方向性を示していく。 |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

令和3年度西東京市事務事業評価報告書

令和4年3月発行

編集・発行 西東京市企画部企画政策課
〒188-8666 西東京市南町五丁目6番13号
電話 042-460-9800（直通）